

行政視察報告書

令和7年 1月 24日

長浜市議会議長 高山 亨 様

長浜市議会議員

北川 陽大

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 令和6年度 つなぐ長浜 行政視察
2. 視察期間 令和7年1月23日（木）～令和7年1月24日（金）
3. 視察場所及び目的
 - ①福井県坂井市
「オンデマンドのイータク」
 - ②長野県長野市
「教育支援センターSaSaLAND」

4. 調査内容感想等

・視察の目的

坂井市 オンデマンドタクシー イータク

・視察の内容

坂井市が市内全域で運行する乗り合いタクシーにオンデマンドモビリティのサービスを提供。

坂井市では、令和5年1月13日（金曜日）より市民の通院や買い物といった日常生活に必要な近距離移動を支える新たな交通手段として、イータク（オンデマンド型交通）の市内全域運行を開始した。

長 浜 市 議 会

坂井市は、人口の減少や高齢化が進む中で、市民の通院や買い物といった近距離の移動を支える新たな公共交通の整備を目指して、2021年5月から一部のエリアで乗り合いタクシーの実証実験を行ってきました。この実証実験において、運行における課題を把握するとともに、最適な運行方法を検証し、このたび市内全域で乗り合いタクシーの運行を開始することになりました。計714カ所に停留所を設置し、市内を4つのエリアに区分して、同一エリア内および隣接エリアの停留所間を運行します。これにより、市民の方は、事前にスマホアプリまたは電話で予約をすれば、同一エリア内および隣接するエリアの停留所間を同一運賃で移ることができるようになった。

令和6年4月1日（月曜日）より市内全域での運行を開始し利便性をさらに向上させている。

1乗車、300円 or 500円の乗り合いタクシーとなっている。

坂井市オンデマンド型交通（乗り合いタクシー）の予約は3日前から1時間前まで可能で、65歳以上や障がい者、小中高生は300円、それ以外の方は500円で利用できる。

■導入のきっかけ コミュニティバスの利用者低迷と経費

平成21年より導入したコミュニティバスが年々利用者が低迷しており、さらに市民からの定時運行のバスが「不便」「不満」との声が強くなった。

そこで、地域住民が主体となり地域ドライバーが地域住民を乗せて目的地まで運

行する『自家用有償旅客運送』の導入を推進していく運びとなった。そこで「ソフトバンクとトヨタの合弁会社である MONET(モネ)テクノロジー株式会社と覚書を締結し事業を推進した。※システム提供会社だがあらゆる相談にのっていた。

■課題 地元交通事業者からの反対

導入直前に、地元交通事業者から『自分たちの食いつ持が取られる』との理由からストップがかかった。そこで交通事業者が運行管理、運行業務を担う「一般乗合旅客自動車運送業者」に方針を転換した。

■実施後の反響

イータク導入後、コミュニティバスとの移行を考え9か月間は両社運行の期間とした。

コミュニティバス基幹ルート ルート見直し(直線化)

コミュニティバス接続ルート すべて廃止 オンデマンド型交通へと切り替え

利用者がかなり増加しており、コミュニティバスからの移行が進んでいる。

また、これまでは2時間前までの予約だったものが、利用者の利便性を上げるために1時間前までの予約にする予定となっている。

コミュニティバスからオンデマンドタクシーに変更の際、最終的な公共交通にかかる行政負担額は変更しないようにした。そのため、財政負担は増えても減って

もない想定である。

■しかし、燃料費や人件費の高騰による対策

単純に委託業者に支払額の差額をUPして払っている。

■課題

運行当初から半年ほどは予約の8割は電話のため、電話がつながらなかった。

そのため、LINEやアプリの活用を促している。現在、4割まで上がってきている。

■長浜市との違いと参考にするべきこと

・長浜市は路線バスが残っているエリアに関してオンデマンドタクシーは運行されない。

・イータク（オンデマンドタクシー）は運転手が専属となっている。月曜から金曜まで。人件費の補填は計算しやすい。また、通常のタクシードライバーと違い、1時間の固定休憩もあり、デマンドタクシーの運転手の採用希望者が多い。※タクシーの車両自体は通常の営業時間は通常運行している。

・ガソリン代、人件費の高騰に対して補填を行っている。

・オンデマンドタクシー導入にあたり、路線バスを基幹ルートに見直した。

また、基幹ルート以外はオンデマンドタクシーの利用を推奨している。

・長浜市のオンデマンドタクシーは病院を除くと、利用は同じゾーン内になる。

しかし、坂井市は隣接エリアまで乗車できる。

・イータク業者に市からは2台ジャンボタクシーを提供している。

しかし、実際はセダンタイプの通常のタクシー車両を使用している。

以上から長浜市でオンデマンドタクシーの利便性や、既存バス路線の見直しなど参考にするべきことが非常に多いと考える。

・視察の目的

■長野市 教育支援センターSaSaLAND

・視察内容

長野市では、市内7か所に教育支援センターを設置して、学校へ行きにくくなっていたり、行けない状態が続いたりしている小・中学生に対して社会的自立に向けた支援を行っている。しかし、施設が狭あいなどで新たな受け入れが困難な状況であった。そこで、長野市立七二会小学校笹平分校を改修し、新たな受け入れができる施設として8か所目の教育支援センターSaSaLAND（ササランド）を令和6年4月にオープンした。SaSaLAND（ササランド）での不登校児童生徒への支援への在り方、学校に登校するのが目標とせず、社会的に自立することを目指す方向性が廃校の活用法、教育の在り方に関して参考になった。

■計画 令和3年度に計画された。SaSaLAND設立までに7つの教育支援センターが存在していたが、旧小学校分校を利用して教育委員会の元、開設に至った。

■費用 令和5年度と令和6年度で、改修工事費用、消耗品費、調弁費など2年間の総額で1億8千万の経費を使用している。

■SaSaサポーターミーティング（運営協議会）

ブルースカイ（親の会）、自治協議会、信州大学教育学部、NPO法人など12名で組織され、子どもたちの意見を反映させている。

■方針と内容

SaSaLANDではプログラムを組むが、これに参加するかどうかは子供たちに選択権がある。自由度を持たせ、子どもたちの意見を聞いて反映させている。

また、自宅に居ながらでもオンラインで通える居場所も用意している。

オンラインの参加から実際に通学につながった場合もある。

公教育のためのプログラムはあえて組まず、まず家から外に出るためのきっかけ作りにしている。しかし、あえて学校に行かせるような指導も行っていない。

子どもがやりたいかやりたくないかの選択だけでモノゴトをすすめることにしている。

■開設から1年経って

・SaSaLANDはフリースクールとの共存、共栄を図っている。民間業者との圧迫を心配もしていたが、お互い研修し合うなど、関係性良くすすめることが出来て

いる。

・荻原健司市長が毎年、子ども支援に力を入れているため、フリースクールやSaSaLANDのような行政が運営する施設にも予算が毎年増額されている。

■長浜市での参考にするべきこと

予算の組み方は正直厳しいであろう。

長野市でも西地区は充実しているが東地区は人口集積度の関係で予算もかけられないという。そこで、やはり学校内での居場所を作ることが本来の理想としているようだ。

いったん、SaSaLANDのような施設に通ってしまうと学校内での居場所に戻れないのではないかという葛藤もあるとのこと。

フリースクールへの支援もしている関係で、市政での財政負担は年々多くなっているもので、どこに比重を置くかが重要だと考える。

また、公教育に関わらず、家から外に出てもらうための工夫に関しては参考にするべきことが多いにある。

